氏　　名	丸山宗志
学 位 の 種 類	博士（観光学）
報 告 番 号	甲５１０号
学位授与年月日	２０１９年3月３１日
学位授与の要件	学位規則(昭和２８年４月１日文部省令第９号) 第４条第１項該当
学 位 論 文 題 目	港湾都市・門司港市街地の再編過程にみる観光地化の空間的特色
審 査 委 員	（主査） 松村 公明（立教大学大学院観光学研究科教授） 佐藤 大祐（立教大学大学院観光学研究科教授） 豊田 由貴夫（立教大学大学院観光学研究科教授） 大塚 直樹（亜細亜大学国際関係学部准教授）

Ⅰ．論文の内容の要旨

（１）論文の構成

第１章　序論
　第１節　研究の背景
　第２節　従来の研究
　　（１）観光地理学の現代的課題
　　（２）都市地理学の応用可能性
　　（３）港湾都市に関する地理学研究の課題
　第３節　研究の目的と方法
　　（１）研究の目的
　　（２）研究の方法
　第４節　研究対象地域の選定理由
　第５節　研究対象地域の概観
第２章　港湾都市・門司港の盛衰と観光開発
　第１節　門司港の歴史的変遷
　　（１）門司港の築港と港湾都市の整備
　　（２）戦後の港湾機能の停滞
　　（３）陸上交通の革新と拠点性の低下
　第２節　門司港レトロ事業の推進
　　（１）計画策定の背景と北九州市ルネッサンス構想
　　（２）門司港レトロ第１期事業による整備
　　（３）門司港レトロ第２期事業による整備
　　（４）門司港レトロ事業の課題
　第３節　門司港における市街地の縮小
　　（１）人口集中地区（DID）の縮小傾向
　　（２）人口集中地区（DID）における人口動態
　第４節　小括
第３章　観光からみた門司港市街地の地域分化
　第１節　門司港市街地における商業店舗の分布形態
　　（１）小売店舗の分布形態
　　（２）飲食店舗の分布形態
　　（３）サービス業の分布形態
　　（４）新旧市街地における商業店舗の分布形態の特色
　第２節　門司港中心部における土地利用状況の変遷
　　（１）門司港レトロ地区における土地利用変化
　　（２）旧日銀通り沿線地区における土地利用変化

（３）栄町地区における土地利用変化
第３節　栄町銀天街の事例
（１）栄町銀天街における店舗の業種構成
（２）栄町銀天街における業種構成の変遷
（３）栄町銀天街における観光地化への対応
（４）栄町銀天街と観光地区との関係
第４節　小括
（１）門司港市街地中心部における対照的な地域的性格
（２）門司港市街地中心部の変容過程
（３）栄町銀天街における他地区との機能的な関係性の変化
（４）観光からみた門司港市街地の地域分化
第４章　門司港市街地における観光地化の進展と「観光的郊外」の形成
第１節　門司港市街地における新規開業店舗の出店傾向
（１）門司港レトロ事業による観光開発の収束
（２）門司港市街地における新規開業店舗の分布傾向
第２節　新市街地における観光地化の進展
（１）新市街地における新規開業店舗の特色
（２）新市街地の出店傾向にみる観光の地域的展開
第３節　旧市街地における観光地化の進展
（１）旧市街地における新規開業店舗の特色
（２）旧市街地への店舗移転の事例
（３）旧市街地の出店傾向にみる観光の地域的展開
第４節　小括
（１）新旧市街地における観光地化の進展
（２）旧市街地における観光地化への地域的対応
（３）旧市街地における「観光的郊外」の形成
第５章 結論
第１節　門司港市街地の再編過程と観光地化に関する考察
（１）観光地化と市街地縮小の同時進行
（２）観光からみた市街地の地域分化
（３）門司港市街地における観光地化の進展と「観光的郊外」の形成
１）新市街地における観光地化の進展
２）旧市街地における観光地化の進展
第２節　結論
参考文献
謝辞

（２）論文の内容要旨

本論文は、北九州市・門司港を対象地域として、観光開発を起点とする観光地化が港湾都市の都市域にもたらす作用を空間的に明らかにすることを目的とする。研究の目的を達成するため、都市機能の集散と観光開発事業の推進に着目して対象地域の歴史的背景を整理するとともに、継続的な現地調査によって得られた独自のデータから、観光を受容していく港湾都市の段階的な地域変化を詳細に記述し、港湾都市の再編過程と観光地化との関係性を導き出すことを試みた。

第１章では、先行研究の整理をした上で、本研究の目的と方法について述べている。本論文は、港湾都市における都市発展基盤の盛衰が観光開発と人口減少に起因する点に着目しながら、観光地化と市街地の縮小との関係から地域構造の変化を読み取ろうとするものであり、このため観光地区を市街地の一部として位置づけ、旧市街地を含めた市街地を対象範囲とする地域構造的考察の重要性を主張している。その上で、門司港市街地を観光に活路を見出した港湾都市のフィールドとして選定した理由を述べている。

第２章では、門司港市街地の歴史的背景について、それぞれ都市化と資本の集積、観光開発事業の推進、市街地の空間的縮小の各点から整理し、港湾都市としての盛衰過程が地域構造の変化を生み出してきたことを論じている。門司港では、港湾都市としての発展が市街地形成と都市機能の集積を促し、第２次大戦後の停滞が結果として旧港を対象とした開発事業を招いて観光利用を促進した。また港湾都市の地形的条件を反映して、市街地の範囲は都市化の進展につれて山地側へ拡大し、人口減少に転じると縁辺部の人口密度が低下してきた。門司港では、都市の衰退は観光開発事業の必要性と市街地の空間的な縮小をもたらし、いずれも 1980 年代以降に進んできた。

第３章では、門司港中心部を対象とした商業店舗の分布形態、土地利用状況の変遷過程、商店街における業種構成の推移と観光地化への対応状況を検証することによって、観光地区の特性を明らかにするとともに、港湾地区に形成された観光地区と既存の地域住民向け商店街との機能的な関係性に関する考察から、市街地における観光地化の１次的作用を論じている。門司港市街地における観光地化は、人口減少の進行する都市の生活空間に浸透して面的な観光地域を形成するのではなく、観光産業の集約的立地と機能的な専門化によって都市内部地域の境界を強調してきた。この過程の門司港市街地では、空間構成と立地条件の変化をともなって、観光からみた市街地の地域分化が明瞭になったことを述べている。

第４章では、観光開発が収束した 2007 年以降の開業店舗に注目して、市街地の立地条件に応じた観光地化の地域的展開を実証している。この際には、第３章で指摘した市街地の地域分化をふまえながら新規開業者による立地・物件選択過程に着目し、店舗移転の経緯を含めた個別事例から市街地における観光の浸透と空間的広がりを検討した。観光地区周辺では雑貨販売店に代表される空間利用に特徴づけられ、立地条件の優位性が観光客の来店を前提とした店舗営業を可能にしている。一方、旧市街地では新規開業店舗の立地範囲は拡大して外延化する傾向が示され、それを可能にしているのが市街地の縮小にともなって増加した旧市街地外縁部の空き店舗・空き家の存在である。店舗移転の事例からは、開

業希望者を引き寄せる旧オフィスビルのインキュベーター的役割、経営歴を蓄積した経営者による旧市街地へのオーバーフローなどに焦点を当て、市街地において観光地化が進展するプロセスを描き出している。経営者らの個人的な取り組みは、開発から取り残された旧市街地の空間利用を充足させることから、観光地化への地域的対応として捉えて考察している。

第５章では考察と結論の章として、市街地の再編過程と観光地との関係を模式図として表した。門司港市街地における単核的な観光開発は、市街地の空間構成と立地条件に変化をもたらし、観光地区と旧市街地との境界を強調した。つまり市街地における観光地化はその１次的作用として、観光からみた市街地の地域分化を発生させた。この市街地の境界は新規開業者の立地選択に影響を与え、その２次的作用として立地条件に応じた観光地化の進展をみた。このうち新市街地の観光地化の進展は、業務施設の内部利用の転換をとおして進行し、観光地区と観光ゲートウェイに接した地区に顕著にみられる。一方で旧市街地では、市街地の縁辺部に向かって新規開業店舗の立地範囲を拡大させ、店舗物件には経営者自らのリノベーションによって老朽化が解決された空き店舗・空き家が利用されている。旧市街地にみられる実践的な地域商業への参画について、新市街地の急速な観光地化、さらに取り残された旧市街地の生活空間に対する地域的対応として捉え、港湾都市に適用可能性を有した「観光的郊外」の形成モデルと成立要件を指摘することによって結論とした。

Ⅱ．論文審査の結果の要旨

（１）論文の特徴

本論文は、観光開発を起点とする観光地化が港湾都市の都市域にもたらす作用を空間的に解明するため、都市機能の集散と観光開発事業の推進に着目して、継続的な現地調査によって得られた独自のデータによって、観光を受容していく港湾都市の段階的な地域変化を詳細に分析したことに特徴がある。まず、市街地中心部を対象とした精緻な土地利用状況と業種構成の経年分析をもとに、旧港付近にみられる観光産業の集約的立地と地域住民向け商店街が求心力を失う過程を詳述している。さらに、観光地化に基づく空間構成の変化と市街地における地域分化の様相を提示した上で、観光開発が収束した 2007 年以降の開業店舗に注目して、市街地の立地条件に応じた観光地化の地域的展開を実証した。最後に、立地選択と開業動機に踏み込んだ独自のデータから、雑貨販売店に代表される新たな空間利用の特色を示すと同時に、旧市街地に残された空き物件を活用する新規開業者の営みをつきとめて、観光開発と方向性を異にした実践的な地域商業への参画をつぶさに描き出している。以上の各段階を市街地の再編過程に位置づけて説明することによって観光地化と地域構造の変化との関係を提示しつつ、港湾都市への適用可能性を有した「観光的郊外」の形成モデルと成立要件を指摘することによって結論とした。

（２）論文の評価

本論文は、工業都市の歴史的港湾で推進された大規模な観光開発が、衰退する中心市街地の空間構成にもたらした作用について、地理学の研究方法に依拠して追究した実証的な研究であり、結論として提示された観光地化の空間モデルは、これまでの観光研究に新しく重要な貢献を加えるものとして高く評価できる。とりわけ、土地利用調査に基づく中心市街地の静態的な分析を根拠に、観光関連店舗の移転・開業の過程を追跡して観光地化の動態的な描写を試みた本論文の展開には迫力とともに説得力がある。この展開によって「観光地化の波」と「都市化の引き波」との重なりに生じた中心市街地の空洞化域に、雑貨販売店に象徴される新たな観光空間の萌芽を発見し、これを「観光的郊外」として可視化することに成功している。本論文の骨格を成す主題図は明晰であり、同時に全体を彩る地誌的記述の豊かさは、長期に渡る精力的な現地調査をとおして蓄積された地理情報と景観観察の表れと判断できる。

審査委員会は、本論文の観光研究としての独自性と研究上の貢献を高く評価し、博士の学位に相当するとの見解で一致した。